

平成 26 年度古河市子ども・子育て会議第 2 回 議事録

日 時	平成 26 年 7 月 8 日 (火) 15 : 00 ~ 17 : 00
場 所	古河市役所中央公民館会議室 1, 2
出席委員	楠田 和仁 (古河市 PTA 連絡協議会代表)、大山 陽子 (保育園・保育所保護者会代表) 石川 真也 (幼稚園保護者会代表)、酒井 邦子 (母親クラブ代表) 山中 恵理 (病院・保育設置事業所代表)、鈴木 悦子 (古河市健康づくり協力会員代表)、浅野 誠 (企業代表)、齊藤 きよ子 (民生委員児童委員代表) 大高 滋 (古河市心身障碍児 (者) 父母の会連合会・今回欠席) 江連 陽子 (社会福祉協議会代表)、大沢 幸子 (公立保育所長) 堤 千賀子 (教育委員)、坂入 幸子 (校長会)、鈴木 源一 (市職員 O B) 小林 淳子 (公募)、小竹 由美子 (公募)
事務局	鈴木 浩二 (子育て対策課長)、尾花 浩二 (子ども政策室長) 樋口 和久 (子ども政策室係長)、安部 宏枝 (子ども政策室主事)
委託会社	株式会社サーベイリサーチセンター 狸々 聡子
内 容	・子ども・子育て支援事業計画における「区域の設定」(案)と「量の見込み」(案)について ・次世代育成支援地域行動計画(後期計画)の事業評価について ・私立幼稚園の収容定員変更に係る市意見書について ・その他
事務局 堤 会 長	1) 子ども・子育て支援事業計画における「区域の設定」(案)と「量の見込み」(案)について 資料 1 に基づき説明。 事務局の説明が終わりました。事務局に方向性を出していただいて、それを見せていただ いてから、私たちは意見を出し合おうということでした。まずは「区域の設定につ いて」ご理解をいただけたかどうか、ご質問がある方は質問していただきたいと思 います。区域の中で需要と供給のバランスを取る時に、考える区域の単位をどのように設定しま しょうかという話です。教育と保育の提供の区域としては、古河市を一つの区域として、そ の中で供給バランスを考えていきたいというのが、事務局案です。いくつか理由の説明も ありましたし、前回会議で酒井委員からもありました、「ここに人口が集中しているから」 とあって、そこにだけ大きな需要が発生するわけではないということです。教育の質など 保護者の選択の幅が広がっていることがひとつ、ほかには勤務地など導線なども加味する と、古河市は一つの区域として考えたほうがよいという案です。これについて、ご意見や 感想はありますか。もちろんご質問でも結構です。
事務局	資料の 7 ページで、小学校の児童クラブ入会割合で上から 8 番目「釈迦小」が文字化けし ていますので、訂正をお願いいたします。申し訳ありません。
鈴木(悦) 委 員	私自身も総和地区に住んでいて、古河地区に勤務していました。大きいほうが保護者にと って選択の幅が広がると思います。
堤 会 長	では、「量の見込み」にいく前に、「区域の設定」(案)について、ご承認いただいたという ことでよろしいですか。

	(承認)
	ありがとうございます。もうひとつ、児童クラブの区域設定については、小学校単位ですが、その区域で需給バランスをみていくということによろしいですか。
鈴木(悦)委員	私もそれでいいと思うのですが、小学校単位で、空き教室をお借りして実施している。ほとんどが空き教室の利用ですか。
事務局	空き教室を利用しているところもありますが、現在は学校敷地内の別棟専用教室が多いです。ただ、すべてお金がかかることですし、当然空き教室があれば利用していくのが効率的ですし、児童の移動も少なく済みます。
鈴木(悦)委員	教室に入る子どもは限られます。資料を見ますと、1年から3年生、4年から6年生の利用割合がありますが、大体1年から3年生の子どもが入れるのかと思います。いろいろな話を聴きますと、4年生あたりでクラブに入れないうち、母親が7時にしか帰ってこないのに、家に居させようかという親がいること、また、せめて夏休みだけでも、4年生のうちは預けさせてくれないかなという親がいることも知っています。ただ、クラブの指導員に話を聞いてみると、もういっぱいだから、気持ちはわかるけれど入所できないというのが現状です。
事務局	おっしゃるとおりです。学校によって充足率が違います。しかし、保護者のニーズをすべて汲んでいくのは、キャパシティがあることですし、また不足しているからと言って施設整備をするわけにもいきません。その辺は利用者の希望の推移をみるなどして、可能であれば空き教室を検討しています。当然、学校の状況も把握はしています。
鈴木(悦)委員	ただ、新たな(空き)教室といっても、空いていないですよ。
事務局	そういう理由もあるので、新たに作る場合は、専用教室を作る学校が多いです。
坂入委員	今、いろいろなことがあるので、4年生以上の子どもでも、ひとりでぼつんといる子もいる。もう少しゆとりがあるほうが、安全を確保できる場所としていいのかなと思います。空き教室も子どもの数が減っている地域も結構ありますけれど、だんだん増えていくところもあります。
山中委員	ここで疑問です。今、学校で人間関係がうまくいかない子がいます。児童クラブでも、いじめられたり、馴染めなくて、クラブにいずれなくなる子がいるのかということです。今は、自分が通学している学校の子どものしか、その学校のクラブで受け入れないのでしょうか。それとも、もう少し広域で利用できないのでしょうか。
鈴木(悦)委員	問題は、七小の子が四小に行けるのか、ということです。
事務局	基本的には、その子の所属している学校の児童クラブに入ることを原則としています。隣の小学校のクラブが空いているからといって、そちらに行くことはありません。いじめ等の意見もでしたが、4月当初に入会して、詳しい理由はわかりませんが、その後希望により退所されたという子もいます。
堤会長	クラブに指導員もいるので、いじめなどの対処はできていると思っていいですね。まだまだこの児童クラブには課題がありますね。学校間や年度によって量に隔たりがある。これは私たちが、保護者のニーズと実績をみて、判断していけばいいと思います。それでは、児童クラブについての区域の設定は、小学校単位で設定するということがよろしいでしょうか。

(承認)

ありがとうございます。

では、次の量の見込みについて、ご意見をお聞きします。まずは、保護者のニーズ調査と実績値がありますが、みなさんの中には、なぜ、この数字になったのかという疑問もあるのかと思いますが、どうでしょうか。

事務局から、特にこの数字の説明というものはありますか。預かり保育などは、補正の幅が大きいものですが、どうでしょうか。

委託会社

(数字の考え方について)

幼稚園の預かり保育、2号認定は調査結果と大きく乖離があります。2号認定の判定理由が、ある程度仕事をされている保護者の家庭で、幼稚園に通われている方が、預かり保育、つまり通常の保育時間を超えて利用する場合、1年間の希望する就労日数を記入できるようになっています。概ね250日働くとフルタイムで働くことになるので、利用希望のある方の250日を乗算すると、かなり大きな数字になってしまいます。これは、全国的にかなり大きな数字がでていて、実績値と大きくかけ離れてしまっています。また、1号・2号の区分けというのは、新制度に入る来年度から始まることなので、現在は分けることが難しいです。保育を必要としない教育のみの1号の方と、少し就労されて保育を必要とする2号の方で分けるとすると、1号認定のほうが少し多く見積もる必要があるのと、2号認定の数字が20万ということはないだろうということで、下方修正をし、見込量を算出しています。

このほかにも、病児・病後児保育については、古河市は今提供体制がないということです。ニーズ調査は、使いたいと思った日が1年間で何日か、という内容であり、身内の方・身近な方に面倒を見てもらえる可能性は加味しないことが基本に作られています。年間8千人分は多すぎる、ということで、下方修正しています。

一方で、地域子育て支援拠点事業ですが、利用希望としては年間で3千件くらいです。開所日数はそれぞれだと思いますが、1日あたり訪れる確保の数はかなり少なくなってしまうので、実績としては、すべての施設あわせて26,298人が利用しています。さらに利用希望拡大を加味し、上方修正をしています。

特に大きな修正はこのあたりだと思います。

事務局

今、数字の分析は業者から回答をいただきましたが、この数値から見える考え方ということで、補足いたします。

順番は前後しますが、地域子育て支援拠点事業、調査結果3,491に対し、実績26,000と大きく乖離があります。これ、私自身もそうですが、そもそも地域子育て支援拠点事業と何か、という理由もあると思います。一般的な考えです。アンケートにはその定義が当然書かれていますが、意外と知らないでアンケートを回答してしまっていることもあると思います。ただ、実際拠点事業は利用している方も多いですし、民間の幼稚園や保育園でも、子育て支援センターという形で設置しているところが多いです。それと、総和地区には、ネーブルパーク内にヤンチャ森という拠点施設があります。一つの考え方ですが、本人が知らず知らずのうちに、実は利用していた、という実績の数字ではないかと理解しております。

ほかにかけ離れているものとしては、病児・病後児保育があります。8, 191人ということですが、親御さんからすれば、本当に困ったときどうすればいいのか、実際は微熱がある、お腹が痛いとか些細なときもありますが、そういう気持ちの表れなのかと思えます。ただ、現実には会社もそういったことでは休めない事情もあります。また、古河市もそういった施設を整備しているわけではありません。そういったことで、この100倍近い数字の乖離があるものと思えます。

預かり保育の長期以外ですとか、2号認定による利用も、保護者の方の目線で考えれば、友達と出かけた、食事に行きたいなど、ちょっとした時間に利用したいという気持ちが如実に表れている数字だろうと思えます。補正にならないかもしれませんが、よろしくお願ひします。

堤会長 アンケートの数字というのは、保護者の心情が反映されていますね。「預けたい」という数よりも、「預ける」数が少ないのは、就労の希望があり、それがあとの数字にも関係していくわけですね。そういう理由も考え、実績も踏まえ、補正したものがこの表になるということですね。ほかに、この表について、ご質問はありますか。

酒井委員 病児保育の件ですが、補正としてマイナスになっていますが、病気になった時に預ける場所は必要ですね。古河市は今実施していませんが、保育所の中に施設を作るのか、それとも大きなものを作るのか、実際に必要で切実な問題なので、この補正の仕方は納得いきません。今後、どのように考えておられますか。

事務局 調査結果との比較になるので、マイナスになっております。委員さんのおっしゃるように、現在古河市では実施していません。体調不良児のみ、一園で実施しています。補正の理由として、実績がないことを挙げていますが、今後は供給体制の確保を考えています。ただ、実施するにあたり、病院との協力関係もあります。なかなか進まないのも現状です。

酒井委員 今、一例も挙げましたが、この補正案も鵜呑みにしてほしくないと思えます。これはあくまでも考察であって、実際はどうなのかというのは、ここから一捻り、二捻りして、事務局として考えていかないと、この政策はやっていけないと思えます。これはあくまでも、参考であって、みなさんの力で、これからのことを考えてなくてはならないと思えます。

堤会長 まったく、その通りだと思います。このアンケートからでてきた数字と実績値でかけ離れたところを補正するという形になるので、上向き・下向きという矢印はでてきてしましますが、ひとつひとつの事業には、その裏にたくさんの理由がありますので、それを加味しながら事業に反映させていくものです。これはあくまでもアンケートの補正ということで見てください。ほかにお気づきになったところはございますか。

補正を施した数字は、最終の10ページに掲載しております。なにか質問はありますか。このゼロになっている箇所はなくなっていくというものですか。例えば、子育て短期支援事業(=ショートステイ)とかはどうでしょう。

事務局 ショートステイの管轄は福祉総務課という課になります。その担当と、市内にショートステイの事業所はあるのかと尋ねましたが、市内には存在しません。では、何処でやっているのかといたら、それは野木町で実施しているということです。実績は年間で10人弱です。潜在的なニーズはあるのかと思えますが、このショートステイや病児病後児保育は、事務局としても、あまり大風呂敷を広げた数字を示したくはないところです。目標は定め

	<p>ますが、結果的にそれを上回ることができた、というのが、いい仕事と考えています。そういったことを加味してこの数字を作っております。</p>
小林委員	<p>利用者支援事業とは、数字がゼロになっていますが、どういった内容でしょうか。</p>
事務局	<p>横浜市で実施している保育コンシェルジュ、松戸市で実施している保育コーディネーターがそれに該当します。育児相談やケアをしてくれる人のことをいいます。拠点施設に置くようなかたちです。古河市でしたら、ヤンチャ森などが考えられます。ただ、ニーズの実態が捉えにくいものです。アンケートではゼロという結果になりましたが、やらなくていいというものではないと考えています。まずは、試験的なものでも始めていきたいかなと考えています。</p>
堤会長	<p>養育訪問事業についてですが、15～16の数字になりますが、この表からは漏れてしまっています。お詫び申し上げます。内容は、保健師の方の定期的なケア訪問事業です。</p> <p>古河市では実施していない事業もありますが、すべてのことに対して、これからは必要になるということで進めていってほしいものです。</p> <p>それでは「量の見込み」に関して、皆様のご承認をいただけるということで、よろしいでしょうか。</p> <p>(承認)</p> <p>ありがとうございます。</p>
事務局	<p>2)「次世代育成支援地域行動計画(後期計画)の事業評価について</p> <p>資料2に基づき説明。</p>
堤会長	<p>この郵送された資料ですが、目を通されたでしょうか。子育てに関するすべての事業ですので、量もたくさんあります。ご存知ない事業も、あったかと思えます。ご利用なさったものもあったかもしれません。すべてに関してでなくて、ご自分でお気づきになったことで構いませんので、事業の評価ということでお願いいたします。また、説明にあったように、庁内でのワーキングチームで評価したものが、次の子ども・子育て会議で戻ってきますが、今日のこの場は、私たちの視点のみで評価をしていただければと思います。</p> <p>まずは、これを言おうと思って準備してこられた方はいらっしゃいますか。</p>
鈴木(悦)委員	<p>私は健康づくり協力員会より選出されました。1ページの3番目の「子育て応援メッセージ事業」です。私たちは6か月検診、1歳半検診の時に検診のお手伝いに行きますが、6か月検診の時に、別枠で「絵本の勧め」をお母さま方に実施しています。「本は心の栄養ですよ」としてPRしています。この事業の内容をみますと、フォトスタンドやガーゼのハンカチですとか記載してあります。私としては、この最後に記載してあるブックスタートを今後も奨励してほしいと思います。</p>
堤会長	<p>ブックスタートについては、実施にあたり教育委員会で意見具申し、実施したのが私です。絵本だけだと思いましたが、ほかにも選択できたのですね。読書というのは大切なことですよね。読むということだけではなく、抱いて、肌で感じてあげる。それが重要です。</p>
酒井委員	<p>7ページの母親クラブ等の推進、こちらについてはお世話になっております。3番目の子育て自主グループの育成ですが、どういうグループを、どのように支援しているのでしょうか。また、私たち「三和母親クラブ」と古河地区の「よちよちクラブ」が、市から補助金を頂いています。市で作成しているガイドブックがありますが、団体の活動内容も掲載</p>

事務局	<p>してほしいと思います。そういう団体についても市でPRしていただきたいと思います。</p> <p>担当課としてはここですが、今担当者が評価をしている最中です。次回までにこういった実績・評価をしたかを報告いたします。母親クラブですが、何らかの機会にPRしたいと考えています。特に会員の確保が大変だと思います。この件は、担当にも繋いでおきます。</p>
酒井委員	<p>もうひとつガイドブックですが、水戸市でおこなっている「わんぱく・みと」という子育て支援事業があります。そこでは、お母さん方が本当に詳しい情報をいろいろ盛り込んでいます。今度持ってきてみます。例えば、この公園のトイレにはおむつを交換する場所がある等の情報が掲載されています。そういう情報があれば、お母さん方も出かけることが安心ですし、自分たちが見守られて子育てをしているという温かさを感じることができます。ぜひ、古河市もそういったものを作っていただけると嬉しいなと思います。</p>
事務局	<p>こういった情報提供に関してですが、昨年度から試験的に始めた予算がゼロ円の事業があります。スマートフォンなどで見られる情報提供サイトを立ち上げました。サイト内に広告があり、その広告収入があるので無料でサイト運営を実施できます。行政のみならず、社会福祉協議会からの情報も提供できますが、サイト設立のねらい・目的として、利用者同士のSNS（ソーシャルネットワークサービス）にも繋がれるという効果もあります。サイトを通じてお友達づくりができればいいと思って立ち上げました。まだ、みなさんには浸透されていないと思いますが、次回のとき、何かの機会に、皆様にお披露目したいと思っております。</p>
山中委員	<p>休日保育を2か所で実施していると記載がありますが、これは市内に住んでいるすべてのお子さんが、利用できるものなのでしょうか。</p>
事務局	<p>休日保育については、総和地区の2か所の保育園で実施していますが、対象者としては、そこに通っている園児となります。一般の方を受け入れる体制ではございません。</p>
山中委員	<p>日曜日がお仕事である方が結構いらっしゃるかと思いますので、だれでも利用できるような体制にならないかな、と思います。病児保育についても、ファミリー・サポート・センターで実施と記載されていますが、もう少し一般の方でも利用しやすいような体制がいいと思います。実際に働くお母さんとしては、必要なサービスではないのかなという気がします。誰だか知らない人に子どもを預けるのは不安ですので、どうしても身内の人に頼りますが、かなり無理をしていただいていることもあります。これから、ますます核家族化や共働き、または親の介護が増えていく中で必要になっていくと思われま。</p>
堤会長	<p>事業評価だけでなく、先程の「量の見込み」でもありましたが、まだ、古河市でそういった体制がとれていない、弱い部分ですね。自分の園児はみるけれど、ほかの園児はみないということでは、体制としては片手落ちどころか、事業として成り立っていないですよ。ね。</p>
事務局	<p>古河市ではファミリー・サポート・センターは1箇所しかありませんが、そこでほかの市では実施していない「施設サービス」というのをやっています。そこでは、継続的に毎日では、金額的に高くなりますけれども、急なお預かりもしております。それは、今後もPRしていきたいと思っております。</p> <p>5ページの10番にある、病児病後児の推進ですが、現況ではファミリー・サポート・センターで実施とありますが、実際はやっておりません。そういう体制ではありません。今後は、病院等との連携をする働きかけは必要と思っています。</p>

堤 会 長	古河市では、まだ不十分なところですので、これはみなさんの意見をきちんと通していただいて、それを加味した事業をしていただく、ということで意見をしたいと思います。
石川委員	先程、ガイドブックのお話がありましたが、こういう事業をみましても、知らなかった事業が多くありました。広報等に掲載してある事業もあると思いますが、なかなか文章だけで、読んでも読み取れない部分があります。一般的には不慣れな言葉も多いと思いますので、もう少しやわらかい言葉で書いてくれば、もっと浸透すると思います。広報に記載してある事業は、なんとなくわかりますが、その内容を読み解くまで時間がかかってしまいます。
坂入委員	11ページの科学大好きスタンプラリーは既に終了しています。
事 務 局	計画を作った時に、掲載していた事業で、今、その事業の評価を各担当課に割り振っています。右側の欄は、あくまでもその時の目標値です。当然、現在実施していない事業も含まれています。
坂入委員	逆に、「みんなに勧めたい一冊の本」事業というのは、ずっと続いています。パーセンテージで数値目標も掲げていますが、この一覧にはなかったと思います
事 務 局	そういった事業は、今後は教育委員会サイドから提案していただければと思います。
堤 会 長	時間もありますので、結局、この一覧すべては見ることにはできません。今度はこれを担当した課で自己評価したものが、次回私たちのもとに戻ってきます。それをみて、改めてご意見をいただく方向にしたいと思いますが、いかがでしょうか。
小林委員	チャイルドシートの貸し出しについては知らなかったのですが、もう少しPRしていただければと思います。
堤 会 長	少し情報が足りない、ということでしょうか。
事 務 局	そういったことも、この事業が新しい計画の事業になったときは、今後の課題になっていきます。
浅野委員	この一覧の実績が平成20年度と、大分前の実績なのですが、その後は、毎年数値として捉えているのでしょうか。
事 務 局	子育てに関するサービスに関して次世代計画がありますが、市では一番大きな計画として総合計画というものがあります。10年スパンの計画です。そこに個別の事業があり、実施計画というものを作ります。毎年やった事業の評価も行って、3年ごとにローリングしながら計画を作っていきます。市の全体の事業として、子育てに関する事業も毎年そこで評価及び精査をしています。
齊藤委員	児童虐待の早期発見と対応ですが、関係機関と一括りせずに、学校・幼稚園・保育所と記載したほうが良いと思います。
事 務 局	そういった文章についても、新たな計画に載せる事業であれば検討いたします。
堤 会 長	ほかにもご意見を伺いたいところですが、まだひとつ議案が残っております。これらの事業評価につきましては、ワーキングチームの評価を待って、みなさんのご意見を伺いたいと思います。こちらの意見としては、働く女性のためのサポートのため、まだない体制について整えてほしいという点、児童クラブの高学年の受け入れについて検討してほしいという点、使いやすいガイドブックの作製に努めてほしいという点は意見として子ども会議から出していきたいと思います。

事務局	3) 私立幼稚園の収容定員変更に係る市意見書について 資料3に基づき説明。
堤会長	定員が増えることについて、園舎が狭くなることはありませんか。
事務局	それはない前提です。適正な申請です。
堤会長	定員増に関して、皆様のご承認をいただけるということで、よろしいでしょうか。 (承認)
	ありがとうございます。
	議案はこれですべて終了となります。
	スムーズな進行にご協力いただきありがとうございます。
	(議事終了～事務連絡)
事務局	<p>次回の会議日程ですが、事務局では8月下旬ということで考えてあります。内容としては、「確保方策の策定」と「骨子(案)」の提示、市の条例(案)の提示となります。条例(案)については、9月議会にかけたいと思っています。内容が固まり次第、これまで通り「子ども・子育て会議通信」にてお知らせいたします。</p> <p>先程、子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター)の事業内容について、ご質問がありましたが、要はファミリー・サポート・センター事業のことですが、ここでの内容は「相互支援サービス」のことです。それぞれ協力会員と利用会員があつて、協力会員の自宅でお子さんをお預かりするサービスのことです。利用実態としては、小学生の実績はないということです。小さなお子さんについては、僅かながらあります。古河市では施設サービスがありますので、そちらの利用が多いのですが、本来の意味の「相互支援サービス」は、ほとんど利用実績がないことを申し添えます。</p> <p>長時間に渡りまして、ご協力ありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして、第2回古河市子ども・子育て会議を終了させていただきます。</p>